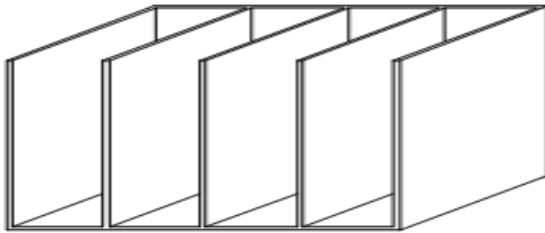


① 入社～現在までを振り返ってみて…

入社して現在は1年半が経ち、初めはC A Dの操作が不慣れで時間ばかり過ぎていく毎日でしたが、先輩方が残していた図面を基に同じ図面を一から自分で描いて操作に慣れていきました。

C A Dの操作に慣れてきた頃、今度は私が想像した物を実際にプラダンを使用して作成することになり、初めて作成したのは私のデスクの上で使用するための書類入れでした。↓



その書類入れも自分で作成したとなると愛着が沸き、今でも使用しています。

入社当初はプラダンといえば収納ケースと思いがちでしたが、上記の通り本棚も作れたり、今までに机・マネキン・パーテーションなども作成してきました。プラダンで作れるのは幅広くあり、可能性に満ち溢れていると思いました。

② プラダンと私

仕事と私です。

③ プラダン設計においてやりがいや喜びを感じたエピソード

日々の設計業務において、ゼロの状態からイメージだけで設計してプラダンを作り上げるのはとても難しいと感じました。

苦労することや壁にぶつかることもあり、何度も失敗を繰り返し、そのハードルが大きければ大きいほど乗り越えたときには、大きな充実感があります。

その仕事を通して自らの成長を実感することもでき、失敗しても成功してもやりがいを感じています。

④ 失敗経験から学ぶ

入社して数か月のころ、プラダンケースの高さが左右で3mmも違っていることがありました。

1ケースだけでは見分けがつかないですが、ケースを5段積み重ねた時に傾いているのに気づき、即座に是正処置を施しました。

設計は数ミリでも寸法を誤れば、その数ミリのひずみどんどん大きくなってプラダンケースを完成できなくなることがあります。

今回はお客様の手に届く前に発覚したもので、もしも、お客様がケースを使用して倒れて怪我をされる可能性があったと思うと、たとえ数ミリの誤差であっても絶対に起こしてはいけないと肝に銘じました。

それから、図面の全ての線の寸法を確認してからケースを作成するようになり、今後は2度と同じ過ちを繰り返さないように努めています。

⑤ これからについて

“プラダンのことならヤマジックス”と皆さまに認知していただけるよう、ユーザー様を一人でも多く当社を知っていただきたいと強く願っています。

そのためにはまず、目の前のお客様に大満足していただける商品を届ける必要があります。お客様の喜びの声をより一層聞けるような良い商品を届けたいです。そのためにはまず、自身のスキルアップに励んで今日よりも明日、明日よりも明後日と日々レベルアップを目指して突き進みます。